

かすが



臨時号

すべての子どもが 仲間とともに いきいきと学べる 春日小学校

2学期末に引き続き、2回目の保護者アンケートには、延べ240人(家庭数で換算すると72.7%)の回答がありました。2回目の保護者アンケートについて結果を分析しましたので、お知らせします。

保護者の皆様の意識における5つの「成果」

1. 子どもの自尊感情の高さ

「子どもは、自分が家族や周りの人から大切にされていると思っている」という項目に対し、9割以上の保護者が肯定的に回答しており、子どもが安心感を持って生活できていることが伺えます。

(児童アンケート)

*自分は、まわりの人(家族や先生、地域の人)から大切にされている。肯定的回答 81.3%

*おうちの人や地域の人といっしょに、活動したりすることは楽しい。肯定的回答 78.0%

2. 安全管理体制への信頼

不審者情報や天候に関する情報共有など、学校の安全管理への取組に対して、86%の保護者が肯定的に回答しています。

(児童アンケート)

*学校生活の中で、みんなの「安全・安心」について考え、行動している。肯定的回答 88.1%

3. 学校諸費用の適切性

教材費等の内容や金額について、84%の保護者が「適切である」と感じており、学校運営の経済的な透明性と配慮が支持されていると捉えています。

4. 「食」と「健康」に関する意識の浸透

家庭での会話(Q23, 24)および学校の教育(Q27,28)の両面において、食育や心身の健康への関心が高く、学校と家庭の双方向で教育が推進されていると捉えています。

(児童アンケート)

*学校生活の中で、食の重要性を学まなんでいる。肯定的回答 89.4%

5. 生命尊重と社会ルールの教育

学校が生命を大切にする心やルールの遵守を育てる教育を行っている点に対し、80%の保護者が肯定しており、道徳面・規範意識の育成が評価されています。

(児童アンケート)

*自分やほかの人を大切にしている。肯定的回答 93.1%

*学校の決まりやクラスの約束が何のためにあるか、わかっている。肯定的回答 90.1%

*人の役に立つことは大切だと思う。肯定的回答 94.1%

保護者の皆様の意識における5つの「課題」

1. 家庭での読書習慣の不足

「家で1時間以上読書をしている」という項目に対し、8割以上の保護者が否定的な回答をしており、児童の読書習慣の定着が課題となっています。

(児童アンケート)

*学校や地域の図書館で本を借りて読んでいる。肯定的回答 61.3%

2. 自律的な学習計画の不足

自分で計画を立てて勉強する子どもは少なく、約7割の保護者が課題を感じています。

(児童アンケート)

*家で、自分で課題を見つけて学習している。肯定的回答 61.2%

3. 予習・復習の習慣化

家庭での予習・復習についても、約6割の保護者が「できていない」と回答しており、家庭学習の質と量の確保が求められています。

(児童アンケート)

*家で学校の授業の予習をしている。肯定的回答 45.4%

*家で学校の授業の復習をしている。肯定的回答 49.7%

4. 地域活動への参加率の低さ

地域の行事や活動への参加について、否定的な回答が6割を超えています。学校として、保護者の皆様とともに地域の皆様ともつながる活動にも取り組んでいきたいと考えています。

(児童アンケート)

*地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。肯定的回答 69.2%

*おうちの人や地域の人といっしょに活動するのは楽しい。肯定的回答 77.9%

5. 授業内容の可視化(ICTや主体的な学び)

後述の「わからない」の多さとも関連しますが、ICT活用(Q31)や主体的な学び(Q32)といった授業の具体的な進め方について、保護者の皆様に十分に伝わっていないと捉えています。

(児童アンケート)

*タブレットを使って学習するとわかりやすい。肯定的回答 86.1%

保護者の皆様が「よくわからない」と回答している項目

*学校は、子ども同士で主体的に学び合う授業を行っている(18%)

*学校は、タブレット端末等のICT機器を活用し、個に応じたわかりやすい授業を行っている(17%)

*学校は、保護者や地域の方に協力を得るなど、連携して教育活動を行っている(16%)

*学校は、子どもの「よさ」や「つながり」を大切にされた教育活動を行っている(13%)

*学校は、子どもの将来を見据えて、社会生活に必要な力を身につけさせている(13%)

保護者の皆様が、学校における教育活動や取組等について、お子さんや学年だより、学校ブログ、そして参観や懇談において理解していただいている点も多くあります。しかし、十分に伝わっていない点があることが、今回のアンケートからも分かってきました。

1. 授業プロセスの見えにくさ

「主体的な学び」や「ICT活用」といった*教室内の具体的な授業風景や指導手法については、参観日などの限られた機会ではしか把握できないことも要因の1つと考えます。

2. 教育目標が抽象的でわかりづらい

「社会生活に必要な力」や「つながりを大切にする教育」といった、成果が目に見えにくい長期的な教育方針や概念的な目標については、日々の連絡帳や通信だけでは十分に実感が伝わりにくいと捉えました。

3. 地域と連携した活動が見えづらい

地域連携(Q35)についても「わからない」が多く、学校が外部とどのような協力関係を築いているか、その具体的な活動内容が家庭まで十分に届いていないと捉えています。

今後は、「どのような授業が行われているか」「地域とどう繋がっているか」といった教育プロセスの具体的な発信を強化していきたいと考えています。

1回目の結果分析でもお伝えしましたように、今回行ったアンケートの結果は、春日小学校の現在地を示す地図であり、春日小学校の「これから」を導く羅針盤です。子どもたちの学校に対する「意識」とともに、保護者の皆様のお子さんの姿を通じて示していただいた「意識」を分析した結果をもとに、これからも、子ども一人ひとりのさらなる成長を願って、保護者や地域の皆様とともに、春日小学校をともに創りあげていきたいと考えています。

2回目のアンケートへのご協力に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。